

西大和つうしん

2011年 3月号

No.345



赤坂山(2/13)

奈良県勤労者山岳連盟
西大和山の会

西大和つうしん

第345号(2011年3月号)

【目次】

山行計画	-----	1
3月度・4月度カレンダー	-----	2
例会山行1《1月23日》鈴鹿の山 綿向山 (島崎)	-----	3
平日山行《1月29-30日》南紀の山 子ノ泊山・烏帽子山 (藤本)	-----	4・5
リ-ダ-学校《2月6日》比良山地 堂満岳 (島崎)	-----	6・7
自主山行《2月6日》北八ヶ岳 北横岳 (勝尾)	-----	8
例会山行2《2月13日》湖北の山 赤坂山 (杉村)	-----	9
室内例会だより	-----	10

3 月 度 山 行 計 画

～山麓から望む姿が美しく、雪をいただく山容は富士山と並ぶ美しさが

例会山行1 **3月13日(日)** 湖北の山《**伊吹山**》(L:辻)

【集 合】 上牧町役場P 6:30

【コース】 登山口駐車場(9:00)～三合目～五合目～伊吹山(1377m)～五合目
三合目～登山口駐車場(15:30 下山予定)

【帰宅予定】 上牧町役場P 18:00着予定

※ アイゼン(8本爪以上)ノピッケル(ストック可)必携

～度会山系主峰の山・伊勢湾と熊野灘の陽光が輝く

例会山行2 **3月20日(日)** 三重県の山《**七洞岳**》(L:島崎)

【集 合】 上牧町役場P 7:00発

【コース】 上牧町役場P(7:00)～なんじゃもんじゃ広場(9:00)～P486
(10:10)～板取分岐(11:20)～P486(14:20)～なんじゃもんじゃ広場(15:20)

【帰宅予定】 上牧町役場P 18:00着予定

～残雪の中に咲く福寿草がメインですが、去年は丁度この時期でぱつちりでした。今年は雪が多くてどうでしょうか？

女性部山行 **3月26日(土)** 鈴鹿の山 《**藤原岳**》(L:勝尾)

【集 合】 上牧町役場P 6:30

【コース】 聖宝寺～八合目分岐～藤原山荘～藤原岳(1120m)～八合目分岐
～大貝戸

【帰宅予定】 上牧町役場P 18:00着予定

西大和山の会 カレンダー

3 月		4 月	
1	火	1	金
2	水	2	土
3	木	3	日
4	金	4	月
5	土	5	火
6	日	6	水
7	月	7	木
8	火	8	金
9	水	9	土
10	木	10	日
11	金	11	月
12	土	12	火
13	日	13	水
14	月	14	木
15	火	15	金
16	水	16	土
17	木	17	日
18	金	18	月
19	土	19	火
20	日	20	水
21	月	21	木
22	火	22	金
23	水	23	土
24	木	24	日
25	金	25	月
26	土	26	火
27	日	27	水
28	月	28	木
29	火	29	金
30	水	30	土
31	木		

例会山行1 **山の神** (三島)

県連総会

例会山行2 **筆捨山**(田中初)

例会山行1 **伊吹山**(辻)

例会山行2 **七洞岳**(島崎)

記念山行 **舟伏山**(田中悦)

女性部山行 **藤原岳**(勝尾)

室内例会・総会

室内例会

例会山行
鈴鹿の山 《 綿 向 山 》

【日 程】 2011年1月23日(日) 曇り後雪・風強し

【参加者】 L 島崎・田中悦・田中初・三島・藤井・村田
勝尾・内田

【コースタイム】 上牧P場(8:00 発)～西明寺P場(9:40/10:00)～
あざみ小屋:3合目(11:15)～行者コバ:7合目(12:00/35)
～綿向山 1110M(13:05/15)～あざみ小屋(14:00/25)
～西明寺P場(15:15)～上牧P場(17:30) 歩数16527

概略

今年は30年ぶりの寒さが続いており、路面凍結の恐れのため、集合時間を遅らせた、西明寺P場はすでに満杯状態、周りは雪で山はかなりの積雪が期待される。

1合目・2合目を過ぎて、林道を登ると、3合目のあざみ小屋の廻りは雪に覆われている、登るにつれ、雪が多くなってきた、行者コバにて昼食するが、細かい雪が降っており、風もあって、落ち着かず、慌ただしい食時であった、ツェルトを張ったがたいして役に立たず。

7合目からは樹林帯を外れ、自然林の中を登る、これより急登、木々が樹氷に覆われている中を登る、風が強くなってきた、雪の量はかなり多い、雪はさらさらの状態が良い、時折薄日が射すものの、直ぐに曇り空になってしまう。

団体さんが続々降りてきた、意外にも登りは歩き易い、風に耐えながら登って、山頂に到着、山頂は銀世界だが、展望はきかず、早々に下山、雪のおかげで足取りも軽く、早々と楽しく下山できた。

帰路、福住ICも空いており、順調に帰る事ができた。

(報告者 島崎 隆)

平日山行

南紀の山《子ノ泊山(906.7m)・烏帽子山(909.2m)》

【日 程】 2011年1月29日(曇り後晴れ)～30日(晴れ時々曇り)

【参加者】 L三島・藤本

【コースタイム】

1日目:新宮ステーションホテル(6:55)⇒<タクシー>⇒朝里登山口
(7:35/42)～詰ノ滝(8:36/40)～朝里辻(9:29/35)～▲子ノ泊山
(10:05/14)～691m 地点付近(昼食:10:48/11:18)～桐原登山口
(11:42)―(林道桐原朝里線)―中の谷橋(12:01)―上桐原バス停
(12:54/13:15)⇒<紀宝町町民バス>⇒JR 新宮駅(13:50)

2日目:JR 紀伊勝浦駅(07:25)⇒<熊野交通バス>⇒大門坂(7:44)～
河川公園(7:49/55)～陰陽ノ滝(8:14/17)～尾根道登山道分岐
(8:45)～松尾ノ滝(9:52/58)～林道出合(10:14)～林道終点
(10:16)～帽子岩(10:59)～▲烏帽子山(昼食:11:05/11:44)～
帽子岩(11:48/56)～林道終点(12:21)～山ノ神(13:00)～三ノ滝
(13:47/53)～二ノ滝(14:03/05)～青岸渡寺・熊野那智大社
(14:38/45)―那智山バス停(14:55/15:00) ⇒<熊野交通バス>
⇒JR 紀伊勝浦駅(15:25)

例年になく寒さの厳しい1月末、折しも寒波到来とのことで、覚悟して
でかけたものの、さすがは黒潮踊る熊野灘を望む山々、しっとりと穏やかな
たたずまいで我々を迎えてくれた。

一日目は干支の名を冠した子ノ泊山。ホテルを7時前に出、タクシーで
登山口へ。林道はほとんど車の往来もなく、猟犬をのせた軽トラが一台、
猪猟に向かうのを見たのみ。いくつもあるルートのうち、一番下の朝里登
山口から取り付く。谷沿いのよく踏まれた小径は、地形図と一部反対の岸
をたどって「詰の滝」に導く。細い流線が美しい。

その後一気に標高を稼ぎ、熊野川の雄大な流れを眼下に歩を進めれば朝里辻。ここで別の登山道を合わせてからは緩やかな尾根歩きとなり、
半時間程で子ノ泊山の頂きに立つ。

「十二支会」の立てた山名標、傍らのウェルカムボードには「十二年後にまたここで会いましょう」の文字。この日は最後まで他の登山者を見ることはなかったが、2008年の子年には大いに賑わったのだろう。展望は申し分ない。南東方には、新宮から熊野市までまっすぐ続く七里御浜、北東には雪を冠した鈴鹿の山並みが望まれる。が、標高は900m越えとあって雪も残る山頂はさすがに寒い。しばらく下ってから昼食をとり、その後またかなりの急坂を転げるように下りて林道に出たところが桐原登山口。ここから上桐原バス停までの6kmを70分で歩き、予定のバスに間に合っ
て新宮のホテルに帰った。

二日目は那智の滝上流にそびえる烏帽子山。紀伊勝浦駅からのバスを那智山の参道、大門坂で降り、少し車道を進んだところにある公園から山道に入る。溪谷沿いの道を渡渉を繰り返しながらさかのぼる。途中、関電の施設の奥にひっそりと「陰陽の滝」さらに登って「松尾の滝」では、朝の冷え込みに凍りついた氷が、乾いた音をたてていままさに剥落しているところであった。このあたり、地形図の表示とはかなり異なるルートを辿って谷を詰めてゆき、やがて林道に出、その終点から最後の登りとなる。

木の根や岩につかまりながらよじ登れば、「帽子岩」と呼ばれる奇怪な岩場の横を通過して山頂に至る。成長した樹木のため、展望はさえぎられがちではあるものの、その合間から、谷あいの集落、そして那智湾が望まれる。陽光の下しばし昼食を楽しんだのち、来た道を下りにかかる。途中「帽子岩」に登って記念撮影。林道を経て、こんどは登ってきた谷の一つ西の谷へ降りる山道に入る。はじめ伏流であった沢が次第に水量を増すにつれ、谷も深くなる。

那智の滝から数えて二つ上の「三の滝」は、登山道からはずれて川面へ降り、ロープにつかまりながら谷の廊下を伝ってたどり着く。落差はそれほど無いが、幅のある立派な滝だ。雨の後などはさぞ豪快な姿を見せてくれるだろうが、そのときには道が水没してここまでやって来れないのではないかと。記念撮影の後ふたたび登山道へ戻って暫く下れば、巨石の転がる川原に「二の滝」が落下している。落差、水量ともに十分で、とりわけその華麗な流線が印象的。しばし滝に見入ったあとは、青岸渡寺までの下り道。西国一番札所の殿宇が目に入るや、にわかに入通りが頻り、そのまま隣接する那智山熊野大社の前へ出る。

無事の下山に感謝して熊野権現に手を合わせた後、はるか那智の大滝を望みながら参道の階段を下ってバスに乗り、帰途に就いた。（記：藤本）

ハイキングリーダー学校 雪山<堂満岳>

【日 程】 2011年2月6日 (天候:雲後晴れ)

【参加者】 L 西岡(NHC)・大森(NHC)・中武(労山)・桜木(労山)
藤井(西大和)・島崎(西大和)

【コースタイム】 JR王寺(7:04)～JR京都(8:10-16 発)～JR比良(9:00-15)
～イン谷口(9:55)～大山口(10:38)～堂満岳(1057M
13:13-14:25)～堰堤(15:20-30)～イン谷口(15:45)～
JR比良(16:52-17:07 発)

概略

1年間を通して、ハイキングリーダー学校もいよいよ最終で雪山ハイク、今回ビバークを想定し、各自必要な物を用意して山行するとの想定である。今年は例年以上の降雪で雪は全く心配なし、大阪経由で京都駅乗り換え。

午前中は晴れの予想であったが、山裾までガスがかかっている状態だ、JR比良より歩いて、イン谷口へ、車が多く、かなりの登山者が来ている。

上の広場はテントが張っており、ボーイスカウトやら大阪の山の会等の人が多く、又雪もやはり多い、これよりアイゼンを付けずに青ガレ分岐手前の堰堤まで歩く訓練をする、足全体を降ろして、坂道はつま先をけて、八の字で歩くがなかなか歩きにくく滑り易い。

堰堤でアイゼンを付けて、本来は青ガレ～金糞峠～八雲が原コースであるが、雪が多いので、これより直登し堂満岳のコースに変更となった、只直登なので、見上げれば、行けども、行けどもすごい上り坂である、時々下を見るとすごい処を登っているとの実感が湧いてくる。

休み休みしながら、登って行く、兎に角、汗が滴り落ちること、冬にこんなに汗をかくことは初めてである。

途中少し食時タイム、少し上で訓練をしている様子が伺える、又急登を登る、登りきるとまさにその上が堂満岳山頂である。

風はあまり無く、晴れており、この季節としては最高の感がある。

ここで、豚汁ならぬ、うどん汁を頂く、これまた最高！！

ツエルトの講習を受ける、両サイドに細紐を付けておく必要を教わった。

又雪を水にする時のやり方も教えて頂いた。

来た道を引き返す事になり、今度は逆に直滑降に下る事になるわけで、すごい傾斜である、慎重に下る、雪質が柔らかいので、踏み跡よりも新雪の上を降りた方が歩き易い、途中、雪質が固い処は寧ろ、踏み跡を歩いた方が歩き易い、桜木さん・西岡さんが時々滑ってしまっている、最後方は顔がこわばっていた。

なんとか、堰堤まで無事、降りてきた。

アイゼンを外して、少し滑る様な感じで歩く練習をするが、最初は何度となく、見事に転んでしまったが、だんだんと慣れてきたようだ。

下山した広場にて持ち物検査？衣服・非常食等カップ麺は×であった、それよりはまだチキンラーメンの方が良いとのことだった。

それとローソクを用意した方がベターとのこと。

イン谷口はすでに人影もなく、車も3台程度が止まっている状態で比良駅まで歩いて帰る、帰路、京都駅下車、酔心にて反省会の打ち上げをして帰路につく。

この1年を通じて、改めて基本を教えて頂いた、あまりにも知らない事が多かった、又新しい仲間もでき、非常に有意義なハイキングリーダー学校でした。習った事を今後の山行に活用して、安全・安心の登山を心がけて行きたいと思う。

(報告者 島崎 隆)

自主山行
北八ヶ岳 《北横岳》

【日 程】 2011年2月6日(日)

【参加者】 L辻・勝尾・藤本・杉村

【コースタイム】 山頂駅・坪庭(10:12)～尾根道出合(10:54)～北横岳ヒュテ
(アイゼン装着 10:58/11:15)～2471.6m三角点(11:33/11:38)～▲北横岳
(11:41/11:52)～北横岳ヒュッテ(昼食:12:06/12:24)～三ツ岳(12:50)
～▲雨池山(13:45)～雨池峠(13:54)～縞枯山荘(アイゼン取り外し
14:01/14:06)～山頂駅・坪庭(14:21)

スキー客や登山客で賑わうピラタスロープウェイを山頂駅で降りると、外は一面の銀世界だった。2500mに近い北八ヶ岳というので、極寒と強風を覚悟していたが、今日はお天気も良く暖かい。雪もここ暫く降っていないようで、楽しみにしていた樹氷は期待外れだ。

コメツガやシラビソ等の針葉樹林帯の中によく踏まれた道を、アイゼン無しで登る。北横岳まで1時間程の予定だ。登りで少し汗ばむ様になった頃、北横岳ヒュッテに到着。

此处でアイゼンを付け、衣服を調整して山頂に向けて出発する。樹林帯を抜けた途端、ゴーという唸り声と共にいきなり強風が襲ってきて、一気に体温を奪っていく。強風の中、先程脱いだ上着を又、着込んだ。見ると木々も、かろうじて風下の方にだけ枝を伸ばした姿で立っている。頂上では360度の眺望が素晴らしかった。

近くは八ヶ岳連峰、蓼科山。南、中央、北アルプスに御岳山、浅間山。遠くは越後三山まで、冠雪の山々が天空に浮かび、見る者の山への想いをかきたてる。

写真を撮り、暫くして下山。北横岳とロープウェイの往復だけの人達が多いようであったが、雪の岩場の三ヶ岳と、雨池山までの雪の急斜面の下りも又、冬ならではの楽しいコースだった。(記:勝尾)

例会山行
湖北の山 《 赤坂山 》

【日 程】 2011年2月13日(日)

【参加者】 CL藤本・SL辻・多賀・三島・林・勝尾・内田・杉村

【コースタイム】 マキノ高原さらさ(10:10)～ブナの木平・東屋(11:36)～
～▲赤坂山(12:45/12:47)～ブナの木平・東屋(昼食 13:31/14:03)
～マキノ高原さらさ(14:45)

電車が湖西に入ると車窓は白銀の世界と一変する。雪が舞っている。バスも満員で出発。しかし西大和の会員みんな座席確保。

案の定マキノスキー場も多くの家族、スキーヤー達で賑っている。その奥が登山口となっている。道も相当雪深かったかスノーシュー、ワカン、登山靴で踏み固められていたのでひと安心。程なくしてアイゼンを装着する。横を登山者が通っていく。

樹林、ブナ林間の急な登りもみんな元気で楽にこなす。しかしトレースは上にいくほど薄い所があり時々膝上までズボッと沈んでしまう。がまたこれはこれで楽しい？冬山の経験が未熟だから言える言葉かな…。

東屋も雪で埋まっているので知らないとそれとわからない。直前で休憩を取っていたので通過する。

今回豪雪であるのに残念ながら樹氷はまったく見る事が出来ない。昨年は特別綺麗だったそうですが……。この次に期待して。

前夜降った雪(地元の方の話)が木々に積もって時々陽光が射すと輝いて美しい。また遠くに目をやると山々のグラデーションも綺麗。

樹林帯を抜けると頂上手前からアイスバーンとなり山頂目前は強風、地吹雪とホワイトアウトの世界、このまま進むか否かL,SL相談して進行を取るが1m先が見えない、飛ばされそうでストックがないと立ってられない、一目散に頂上へ。記念写真をパチリその間2分。一時的ではあったがとてもスリリング。早々に下山開始。

昼食タイムは雪で埋まっている東屋まで戻り食す。丁度青空が出て真っ白な雪が眩しい。山の天気はころころ変わり下山中もまた粉雪が舞う。

(記:杉村)

室内例会だより

【日 時】2011年1月26日(水) 19:30~20:30 事務所

【出席者】島崎、三島、田中悦、田中初、辻、林、平田、村田、藤本、勝尾、杉村、内田、内藤、藤井(14名)

1、山行報告

12月23日(木、祝)	例会山行	堀坂山	L田中悦	10名
1月1日(土)	自主山行	明神山	L島崎	3名
1月9日(日)	例会山行	金剛山	L島崎	4名

2、山行案内

2月13日(日)	例会山行	赤坂山	L藤本
2月20日(日)	公開山行	三峰山	L林
2月27日(日)	例会山行	霊仙山	L藤井

3、連絡その他

- ・全国連盟の会員登録の件、登録事項について
各会の判断に任せるということで、西大和山の会は名前、住所、TEL, 血液型、生年月日で登録しました。
- ・救助隊総会 1月25日(火) 19:30~県連事務所
三島さんが出席しました。
1月30日(日) 雪上搬出訓練 比良堂満岳、西大和出席者なし
- ・テーピング講習会
2月5日(土) 15:00~ 陽養鍼灸整骨院
島崎、勝尾、内田、藤井が参加予定
- ・県連定期総会 3月6日(日) 王寺地域交流センター
西大和が幹事 島崎、多賀、勝尾、藤井出席
- ・会報部より
ホームページに会員専用のページを設けました。
(例会山行計画、自主山行計画、西大和つうしんのバックナンバー)
自主山行案内をホームページに掲載した場合、会員にメールを流す必要はありません。
- ・来年度の山行リーダー表を配布しました。次回室内例会2月23日までに記入してください。
- ・自主山行の計画書の提出
会員2名以上でいく場合は必ず提出すること。その他の場合も、山行の意義、目的を考えて、できるだけ提出してください。